

東京都立小松川高等学校令和4年度第75回卒業式式辞

東京の桜も昨日開花し、日一日と春めいています。

3年生の皆さん、卒業、おめでとう。ご来場の保護者の皆様、本日はお子様のご卒業おめでとうございます。保護者の皆様に卒業式にお招きすることができ、大変うれしく思います。思えば105期生の生徒諸君は入学から3年間、制約のある学校生活を送ってきました。私と3年生とのお付き合いは1年間だけですが、105期生の生徒諸君の印象は鮮烈です。

1学期は修学旅行に行きました。神戸三宮から南京町へ下り、南京町から異人館まで上がるコースは散策というより歩行訓練の言葉がふさわしい観光でした。それでも皆さんは「楽しい」と修学旅行を満喫していました。体育祭ではどの団でも応援団をリードしました。応援の演武は凛々しく、本校の校風である質実剛健を地で行く見事な応援でした。

2学期は総合型選抜の対策として、生徒と面接練習をしました。どの生徒も自分の考えをよくまとめ、一生懸命答えていました。小松川の生徒の誠実さを感じさせてくれました。

3学期も希望の進路実現に向けて頑張りました。2月には連日70名の生徒が教室で勉強し、3月になっても教室で勉強する生徒がいて、最後まで頑張りとおしました。

そのような皆さんに、はなむけの言葉を2つ贈ります。

「自分は自分の主人公　世界でただひとりの　自分を作っていく責任者」

教育者・東井義男（とういよしお）さんの言葉です。

「世界でただ一人の私を、どんな私に仕上げていくか。その責任者が私であり、皆さん一人ひとりなのです。」という意味です。なりたい自分に仕上げていってください。

もう1つは、「雲外蒼天」です。「雲の外は青空」ということですが、「困難を乗り越えたら、いい結果が待っている」という意味です。

最後に、本日、ご列席の皆様、ありがとうございました。皆様のお祝いのお気持ちや、3年間の労いのお気持ちは卒業生に届いていることと思います。学校を代表してお礼申し上げます。これからも、小松川高校への変わらぬご支援をお願いします。

以上をもちまして、私からの式辞とします。

令和5年3月15日

東京都立小松川高等学校長

北江 繁治